

令和7年度 清水第二中学校グループ小中一貫教育構想

ウェルビーイング 自己実現

視点1

【学校教育目標】 **かしこく・やさしく・たくましく**

《求める子どもの姿》

- ・めあてと見通しをもち、進んで学び続ける子
- ・自他のよさを認め、自ら周囲に働きかける子
- ・困難にくじけず、ねばり強く取り組む子

〈令和7年度 指導のポイント〉

○子どもの「主体性」に焦点をあてる

〈二中グループ各校の重点目標〉

- 清水浜田小「なりたい自分に向かって」
- 清水岡小「進んでやろう みんなでやろう」
- 清水船越小「一歩 踏み出す子」
- 清水二中「本気の挑戦」

軸となる取組 ①

『人間関係調整力』を育む

- 人間関係を構築する力の育成
 - ・共同の研修会の実施
 - 指導事例の研究
 - ・講師を招いての合同研修会
 - ・各分掌での指導ポイントの共有
- 特別活動の充実
 - ・自主的、実践的な集団生活
- 生活指導の徹底
 - ・挨拶等の基本的生活習慣の定着

軸となる取組 ②

『地域愛』を育む

- 探究的な見方、考え方を重視した学びの展開
- しずおか学「防災」
 - ・地域の防災について学ぶ
 - ・地区防災訓練への参加
- 「外部人材」との協働
 - ・外部人材を様々な場面で活用し、本物に触れる機会の設定
- キャリア教育の充実
 - ・職場体験学習
 - ・社会科見学 等

【指導の土台】ユニバーサルデザイン～過ごしやすい、学びやすい環境～

- ・誰一人取り残されことなく、安全・安心で落ち着いた学校生活が送れる環境
- ・授業UD…「焦点化」「視覚化」「共有化」
- ・環境UD…「前面黒板の簡素化」「ロッカーや靴箱の整理整頓」
- ・ICT等の活用
- ・特別な支援を必要とする児童生徒への個別支援

【連続性・系統性のある教育課程】

- ・指導要領に基づいた9年間の教育課程
- ・9年間を見通した人間関係プログラム
- ・個別の支援計画の小中間の継続活用
- ・別室登校対応を含む多様な学習ニーズへの対応

視点2

【子ども同士の交流、教職員の協働】

- ・教職員の合同研修（年3回）
- ・児童会、生徒会の連携した「あいさつ運動」
- ・小中連携の学校保健委員会

視点3

【地域との連携・協働】

- ・地域に開かれた教育課程（学校公開）
- ・小、中、地域の連携した防災学習

視点4